

第23回 全港湾青年対策交流集会

2月24日~26日にシーパレス日港福で行われました青年対策交流集会に日本海地方青年部から三役が参加させていただきました。

初日には、各地方活動報告と中央本部オルグということで、全港湾中央執行委員長、鈴木誠一さんから「全港湾の歴史に」について話していただきました。

各地方活動報告では、コロナの影響でどこの地方も思うように活動できておらず、個人的には、ものすごく危機感と焦りを感じました。少しずつコロナ感染者も減ってきているので各支部としても地方としても活発に動き青年部を盛り上げていかなければならないと強く感じました。

鈴木委員長のオルグでは、最初に「港湾労働組合とは？」という問いかけをされました。私がすぐ思い浮かんだのは、「組合員を手助けしてあげる組織」でした。

問いかけに対して鈴木委員長は、「安定した生活、うまい飯を食べれる生活を作ってあげる組織」とおっしゃいました。私はそれを聞いてすごく心に刺さりました。安定した生活、うまい飯を食べれる生活を送るにはやはり賃金 up していかなければならないと感じました。その為にも今回の春闘、組合員さんの為にも頑張っていかなければならないと強く感じました。

二日目は、全国港湾中央執行委員長、真島勝重さんの講演会、各班に分かれての分散会が行われました。真島委員長の講演では、「原子力発電建設阻止のたたかいから学ぶ」をテーマに話していただき、実際の体験談を聞き正直今じゃ考えられないような事が当時行われていたことに衝撃を受けました。しかし、労働組合の頑張りだけで巻原発を白紙撤回させたわけではなく一般住民の頑張りがあったの結果なのだとおっしゃっていました。これから、フクシマキャラバン、沖縄平和行進とありますが青年部がもっともっと盛り上げ真島委員長のよう一般住民も巻き込み行動していかなければならないと強く感じました。分散会では、「キャラバンについて」「青年活動について」中央本部からのお題として「理想の職場とは？」この3つについて話し合いました。個人的には、今後の青年活動に対して頑張らないといけないと思いました。このコロナ禍においてどの地方も支部も思うように活動出来ておらず、最近入ってきた若い子達は、どんな活動をしているのか、組合へと興味が薄れてしまっているのが現実です。コロナも落ち着いてきているのでこれから青年部を繋いでいく為に組合の事を知ってもらう学習会、地域のごみ拾い、レクレーションなど他の地方と合同での活動も考えて活発に動いていきたいと思いました。

最終日には、青年部年間スローガンが発表されました。今年1年このスローガンの通り若い力で新時代を築いていくという強い気持ちをもって行動していきます。

今回、初めて青対に参加させていただきました。為になることばかりで収穫の多い3日間でした。今回学んだ事を地方、各支部に持ち帰り活気のある青年部を築いていきます。

全港湾日本海地方青年部長 敦賀支部 百田 聖治